

令和7年5月29日

推薦書

高木昌興（北海道大学大学院理学研究院・教授）

亀田佳代子（滋賀県立琵琶湖博物館・館長）

堀江明香（大阪市立自然史博物館・外来研究員）

次期日本鳥学会首席代議員（会長）候補者として早矢仕有子氏を推薦します。早矢仕氏は北海道大学農学部農業生物学科を卒業後、同大学大学院農学研究科博士後期課程において博士（農学）学位を取得されました。札幌大学を経て、現在は北海学園大学工学部で教授を務められています。

早矢仕氏は、大学院生時にシマフクロウの生態学研究を始めました。現在よりもさらに希少性が高く、生息個体数は80羽以下と推定された時代です。経験的にしか知られていなかったシマフクロウの生態を個体識別した家族群をベースに繁殖期の生態、一年を通じた生活史特性を解明されました。その中でも特筆すべき研究成果は、足環標識個体や電波発信機を装着した個体を経年的に追跡し、出生地分散の過程や近親交配を実証したことです。それらは生態学的な価値に加え、現在につながる同種の保護に極めて重要な知見をもたらしました。大学院生としての生活をシマフクロウに賭した早矢仕氏の研究活動をなくして、同種の現在の個体数回復はあり得ません。現在はエコツリーリズムの観点から野生生物と人間生活との関係を理解する学際的な研究に発展させた活動に軸足を置かれています。

早矢仕氏は、1998年から鳥類保護委員、2008年は鳥類保護委員長として、また、2010年から評議員、学会法人化後の2024年からは一般社団法人日本鳥学会の代議員、理事を務められ、学会活動に大きく貢献しています。早矢仕氏は、シマフクロウの科学的研究経験をベースとし、保全生物学から学際的な研究に守備範囲を広げた深い造詣から常に冷静な判断をもって日本鳥学会の運営に携わられています。さらに環境省、あるいは北海道庁の委員会あるいは分科会の委員長・委員として、希少種、絶滅が危惧される鳥類の保全活動に力を注いでいます。環境保全において鳥類は非常に重要なもので、鳥学が果たす役割はより大きくなっています。このような時代背景はまさに早矢仕氏に鳥学会の舵取りを任せる時が来ていると考えます。